



# 日本小児看護学会

Japanese Society of Child Health Nursing

## News Letter

### 日本小児看護学会 第19回学術集会開催に向けて

学会長 蝦名美智子  
(札幌医科大学)

今年は100年に1度の世界不況のなか、第19回学術集会が開催されます。

学会のテーマは「大地の力、子どもの力、語ろう未来—小児看護」です。若手が北海道の来し方や現状を語り、形にしました。北海道には自然が沢山あり、この自然が北海道人の血となり肉となっています。でも日本人は日本の自然を血と肉にして出来上がっていると思ひ直し、この不況の中でも子どもが自然にもっている生きる力を壊さないようにすればいいと気づきました。「壊さない」方法の一つに「子どもをrespectする」があると思ひます。今、病院で子どもはrespectされているでしょうか。Respectは、研究社、新英和大辞典6版によると「尊重する、尊敬する、考慮に入れる、妨害しない、without respect to (of) : ~を無視して」とあります。この学会の隠れたメッセージとしてrespectを考えていただければと思ひて

います。

企画では、特別講演としてスウェーデンのカロリンスカ大学小児病院のHospital Play SpecialistのKristina Silfvenius氏に「スウェーデンの小児病院における子どもの擁護」教育講演は欧米の小児病院の建築に詳しい千葉大学の柳澤要准教授による「子どものための療育環境デザイン」、シンポジウムでは、在宅に移行した子どもの医療的ケアの継続に関する現状と課題を検討する予定です。その他テーマセッション、ランチパフォーマンス、新しい試みとして交流セッションとプレセミナーを計画しました。交流セッションは参加者が企画するものです。プレセミナーは看護技術の実践向上を目指して計画されました。北海道の一番いい季節に学会です。企画委員一同、みな様の来札・来道を心よりお待ちしております。

### 日本小児看護学会 第19回学術集会ご案内

テーマ：大地の力、子どもの力、語ろう未来—小児看護 会期：2009年7月18日(土)、19日(日)

会場：札幌コンベンションセンター

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1 TEL:011-817-1010 FAX:011-820-4300

#### 学術集会プログラム

7月18日(土) ☆会長講演 『教育と実践を結ぶ—子どもの力が発揮できる看護』

☆特別講演 『スウェーデンの小児病院における子どもの擁護』 一般公開

カロリンスカ大学病院 プレイスペシャリスト Ms. Kristina Silfvenius

☆教育講演 『子どものための療育環境デザイン』 千葉大学大学院工学研究科・住環境創造デザイン 柳澤 要 准教授  
病院環境&プレイセラピーネットワークNPHC代表

☆総会、シンポジウム ☆テーマセッション、交流セッション、一般演題(口演・示説)

☆懇親会(京王プラザホテル札幌)

7月19日(日) ☆一般演題(口演・示説) テーマセッション、交流セッション ☆ランチパフォーマンス

\*プレセミナー 7月17日(金) 18時半~20時予定 会場：札幌医科大学

学会員のみ、プレセミナーに参加可能です(事前参加登録での申し込みが必要)。

#### <プレセミナープログラム>

- ① 未熟児のポジショニング、② 子どもの呼吸リハビリテーション、③ 赤ちゃんマッサージ、④ スウェーデンにおけるプレパレーションの実践

学術集事前参加申し込みについて：日本小児看護学会第19回学術集会ホームページ「事前参加登録」画面より、表示に従ってweb入力をお願いします。事前登録受付の締め切りは2009年5月29日(金) 正午です。

日本小児看護学会第19回学術集件事務局：〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目  
札幌医科大学保健医療学部看護学科(担当：秦・今野)：e-mail:jschn-19@sapmed.ac.jp  
日本小児看護学会第19回学術集会ホームページ：http://www.w-post.jp/jschn19/

## 研修会「特別支援学校看護師のためのガイドラインの活用」の開催

■ 健やか親子21推進事業委員会 奈良間美保、勝田仁美、二宮啓子、平林優子、丸 光恵、(事務局) 村上泰子

健やか親子21推進事業委員会では、「特別支援学校看護師の支援プロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクトは、健やか親子21課題3「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」の慢性疾患患児等の在宅医療の支援体制の整備と充実への取り組みとして、平成17～19年度に同委員会のプロジェクト「特別支援学校において医療的ケアを実施する看護師の機能と専門性の明確化」(勝田仁美、内田雅代、鈴木真知子、奈良間美保、二宮啓子、宮内環)による全国実態調査とそれに基づく「特別支援学校看護師のためのガイドライン」の作成を基盤とし、現委員会においてガイドラインの推進と評価に取り組んでいます。

本プロジェクトでは、昨年11月30日(日)に研修会「特別支援学校看護師のためのガイドラインの活用」(於：名古屋大学大幸キャンパス)を開催しました。この研修会には東北地区から九州地区まで様々な地域から、特別支援学校に勤務する看護師を中心に、養護教諭、教諭、教育委員会職員、医師を含む計65名が参加されました。研修会では、特別支援学校看護師のガイドライン活用の推進、看護師が抱える課題の共有と解決の手がかりを得ることを目的に、ガイドライン概説「特別支援学校看護師のためのガイドラインの作成と活用(プロジェクト代表：勝田仁美)、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課の下山直人氏による講演「特別支援学校の看護師に期待すること」、愛知県心身障害者コロニー中央病院小児神経科医師の鈴木基正氏による講演「特別支援学校で医療的ケアを受ける子どもに起こりやすい問題と緊急時の対応」を行いました。また、分科会として、ガイドラインを構成する3つテーマ「安全な技術」、「情報収集とアセスメント」、「連携・協働のあり方」について、各会場に別れて実践報告と活発な討議が行われ、最後に、各分科会の内容を全体で共有しました。今回の研修会では、参加者がガイドラインの活用方法を考えるだけでなく、雇用形態の問題や緊急時の対応などを共有する機会となりました。

研修会終了後の参加者へのアンケートでは、研修会とガイドラインについて概ね肯定的な評価が得られました。また、自由記載では、「(研修会を)日本各地、各ブロックで開催してほしい(医師)」、「定期的な会になるとよい(看護師)」、「子どもが重度化しているので、適切な看護師の配置、雇用形態を整備してほしい(看護師)」、「今日のような研修を看護師さんたちにしてもらえれば配慮が必要だと感じた(教諭)」などの意見がありました。医療の場ではなく教育の場で、他職種と連携しながら看護師がどのように専門性を発揮できるのか、そのための要件とは何かを引き続き検討し、様々な立場の方と共有することが必要と感じました。本プロジェクトでは、この他にガイドラインの評価として、研修会参加者への事前アンケートや特別支援学校でのインタビューを実施しています。これらの成果は、今後学術集会等でご報告させていただきます。



分科会での実践報告と討議

## 小児領域で活躍する皮膚・排泄ケア認定看護師

■ 副校長、皮膚・排泄ケア学科主任教員 併任 溝上 祐子 (日本看護協会看護研修学校)

日本看護協会が資格認定を行っている認定看護師(以下CN)は19分野あります。小児看護に特化するものとしては小児救急看護や新生児集中ケアがありますが、感染管理や集中ケアなど成人教育を主とするプログラムに挑戦し、資格を取り、小児領域の看護に生かしているCNもたくさんいます。その中でも皮膚・排泄ケアCNには小児病院や大学病院などに従事し、小児領域で活躍している看護師が増えてきています(約30～40名)。彼女らは日本小児ストーマ・排泄管理研究会等の学術団体に所属しながら、新生児から青年におよぶ対象患者の創傷ケア、ストーマケア、失禁ケアに関する研究や技術開発に取り組み、年に一度の教育セミナーの開催など小児医療者に対する教育的社会貢献も行っています。皮膚・排泄ケア領域には二分

脊椎や直腸肛門奇形などの先天性疾患による機能障害や排泄障害に対して、養育的視点をもって、関わる必要のある対象者が存在します。その子どもたちのニーズにこたえるには専門的知識をもった他職種の連携、つまりチーム医療によるトータルケアが不可欠です。こうした専門的取り組みの1例が日本ストーマ・排泄管理研究会の活動です。この研究会は今年で19年を迎え、看護師のみならず、小児外科医、泌尿器科医などの他職種が所属しています。設立当初は医師を中心に運営されてきましたが、現在ではリーダーシップをとっているのが小児の皮膚・排泄ケアCNたちを中心とした看護師と言っても過言ではありません。医師と看護師でそれぞれの専門分野を確立し、お互いの役割機能を理解し、コラボレーションしています。➤

皮膚・排泄ケアCNの教育プログラムは国内で13箇所の教育機関で展開されています。(日本看護協会ホームページ 認定看護師 を参照)カリキュラムの専門科目は成人患者を主な対象とする内容で組み立てられた教育です。よって、教育機関の入学試験を突破するには成人の創傷・ストーマ・失禁看護の知識が問われます。しかし、入学したあとは小児での経験を強みに学習を重ねることができます。たとえば日本看護協会看護研修学校皮膚・排泄ケア学科で低出生体重児のスキンケア、小児ストーマを要する疾患や手術法から合併症、小児のストーマケアの技術、小児期からの失禁患者の病態とケアを学びます。

また、最新の創傷管理の知識や技術は小児領域でも活用できる特化技術です。CNとしての人材養成に必須な共通科目では看護管理からリーダーシップ、看護倫理、情報処理、文献購読・文献検索、コンサルテーション、教育・指導など多くの技能が身につけられるはずですが、国内における小児看護の質の向上と維持のためにはすべての小児専門施設に皮膚・排泄ケアCNが必要と思われます。全国の障害をもつ子どもたちに平等な質の高い看護が提供されるように今後も小児で活躍するCNの養成に関与していきたいと思えます。

## 皮膚・排泄ケア外来における学童期～青年期患者のケアの問題と課題

■ 皮膚・排泄ケア認定看護師 山崎紀江 (長野県立こども病院)

私が勤務する周産期・小児専門病院は、開院して15年が経ち、皮膚・排泄ケア領域で関わる対象も少しずつ変化し、学童期から青年期の方の受診が占める割合が多くなりました。排泄障害や性の問題を抱える患者さんも多くいらっしゃいます。私はそのような患者さんのフォローアップに関わり、いくつかの問題と課題を抱えています。

1. 成長を見据えたケアと環境の不十分さ：先天性疾患によって長期的経過を辿る場合、医療者の子ども達の成長過程への考慮が不足し、子ども達に発生した問題を家族や医療者が後追いで対応する現状が未だにみられます。ある日、青年期になった患者さんの話題を医師とした際、性交渉の話題に触れた私は、医師に驚愕した顔で見られたことを覚えています。総排泄腔遺残で造瘻術後の患者さんの性の悩み、直腸肛門奇形高位型根治術や二分脊椎の患者さんの排便障害による社会生活上の悩み等は、患者さん自ら言い出しにくいことです。私達は、患者さんに生じている症状や病態が、生活にどんな影響を与えているかを常に意識しなければなりません。そこで、専門外来の面談では、排泄のみならず異性や性の話題にも触れ、オープンに相談できる場であることを明確にしています。触れにくい問題にこそ触れ、真剣に対応し、患者さんが悩みを一人で抱え孤立しないよういつでも味方であることを伝え、対応するよう心掛けています。また、当院の外科外来の診察室はスタッフ通路と診察室がカーテン一枚で仕切られた構造です。そのような場所で排泄や性については話題にしにくく、診察は尚更、精神的負担を伴います。それ故、専門外来は極力できるだけ個室を確保しています。今後は思春期以降の患者さんにも応じた、プライバシーが十分に確保された診察室兼面談室を整えていくことが課題です。

2. 早期からのチームアプローチの必要性：排泄障害は、患者さんの精神的苦痛を伴うことが少なくありません。排泄という日常的な問題を抱え、ストレスを感じる子どもたちは心に傷を負い、心身症を生じる危険性もあります。排泄ケアを行なって

いく上では、局所ケアと共に心のケアも併行していく必要があります。また、排便障害を長期間抱えてきた患者さんが、受診を機に、アスペルガー症候群や注意欠陥多動性障害と診断され、チームでケア介入したケースもありました。排泄障害のある患者さんをケアする上では、多角的なチームアプローチが重要と考えます。当院ではできるだけ早期に臨床心理士に介入を依頼したり、必要があれば精神科医に紹介します。そして、ケアの方法や進め方、ステップアップの段階、評価方法などを検討し、実施しています。今後は排泄障害を抱える子どもたちの成長発達上のKey Ageにおいて、誰がどんなケア介入をおこなっていくかというガイドラインを、疾患又は病態別に、作成していくことが課題です。

今後も上記の課題を掲げながら、子ども達の成長発達の先を見据え、寄り添いながら、個々の患者さんがその人らしく生きていけるよう、支援していきたいと考えます。



お仕事の様子

## 新連載「リレートーク」

今回から会員の方からリレーのようにご自分の体験やメッセージをお話していただく「リレートーク」を企画しました。トップバッターは名誉会員でもある吉武香代子氏です。会員の皆様にとって興味深い内容である事を確信しています。

### 自己紹介

東京生まれ。戦争中、佐賀に疎開して佐賀の高校を卒業。都立の看護婦学校、保健婦学校卒業後、都立清瀬小児療養所勤務中に日本大学卒業（通信教育）。ワシントン大学修士課程修了。都立豊島病院、アメリカの小児病院、小児病棟、大学病院未熟児室、国立小児病院などで小児の臨床看護。弘前大学教育学部、千葉大学看護学部、東京慈恵会医科大学医学部看護学科などで小児看護の教育。

1997年に退職して、今は船の旅などを楽しんでいます。

### 看護師になったきっかけ

私の看護師志望の動機は、決して純粋なものではありませんでした。諸般の事情で大学進学を断念したのですが、とにかく東京で勉強がしたくて、学費が不要であること、食と住を保証されることだけを理由として看護婦学校に入学しました。入学当初は、看護婦資格を得たら、看護婦として働きながら大学で勉強をし直すつもりでした。もちろん、学生としての実習の中で子どもと出会ったことにより、それからははっきりと小児の看護婦をめざすようになりました。

### 新人時代の思い出

新人としての最初の勤務は清瀬の都立小児療養所（現清瀬小児病院）でした。大学の通信教育で学び始めており、（単位認定の）試験を受けるため、「準夜勤にほんの少しだけ遅刻を認めていただけないか」と、たった1回だけ申し出たことがあります。この時、いかなる理由があっても勤務に對しての甘えは許されないと厳しい注意を受け、自分の甘さに気付いて恥かしく思いました。その後、2度とこのような申し出をしたことはなく、規定の半分の時間で答案を書いて提出したこともありました（合格しました）。

### 小児看護の魅力

私にとっては、何といたっても赤ちゃんに触れることが最大

の魅力です。もちろん、赤ちゃんが可愛いとうっとりなどしてられない修羅場は幾度となくぐり、子どものいのちを救い、守るために力を尽くしてきましたが、それでも、そのわずかな合間に赤ちゃんを抱っこしたり、お風呂に入れたりするのが楽しみでした。もちろん保育器の赤ちゃんは簡単には抱けないので、一生けんめい清潔にしたり、ミルクを飲ませたりして大きくなるのを待ちました。

### ストレス解消法

私が若い頃、ストレスということばは殆ど使われていませんでした。アメリカで“ストレスとは”という講義を聞き、病気と関連づけて理解していましたが、“あっしにはかわりのない話”と思っていました。したがって、厳しく激しい勤務の中で過ごしていた頃にも、ストレスということばを自分のこととして感じたことはなく、解消法を考えたこともありませんでした。ただし、すべての責任と束縛から解放された後に、はじめてストレスがない状態とはこーゆーことかと知りました。つまり、私は極楽トンボだったのです。

### 先輩たちに期待すること

世の中は目まぐるしく動き、新しい知識・技術がすさまじい勢いで導入されて、過去の知識も技術もどんどん古くなっていきます。未来に向かって絶え間なく前進しておられる皆さま方には、新しいものを求めるのに貪欲であってほしいと願っています。ただ、かつて決して豊かではなかった時代に、今となっては古い知識と古い技術、そして古い設備の中で悪戦苦闘しながらも、子どもたちの幸せのために必死で働いた先輩たちが居たことを、時々、ほんの少しだけでも思い出していただければ嬉しく思います。

パトンを受けてほしい人  田島香代子さん



## 第4回（2010年度）吉武香代子研究助成公募

日本小児看護学会では、子どもたちの健康増進に寄与するため、小児看護の実践・教育に関する調査・研究の費用の一部を助成しています。尚、助成は1件10万円程度、若干名です。

### （応募資格）

代表研究者および共同研究者すべては2009年度の会費を納入した本学会の会員であること。

尚、代表研究者は入会年度を含めて3年以上を経過した者であり、大学や研究機関に所属するものが代表研究者になることはできない。

### （応募方法）

日本小児看護学会規定の申請書に必要事項を記入し、簡易書留にて日本小児看護学会総務委員会（庶務）に申請書を送付。

（応募締め切り）2009年11月30日（月）必着

詳細は、学会ホームページ<http://jschn.umin.ac.jp>をご覧ください。

## 第6回（2008年度）九州地区地方会 開催報告

第6回（2008年度）九州地区地方会（メインテーマ：「病気の子どもを育む家族を支える看護 一家族と看護職のパートナーシップのあり方について」）、実行委員長：佐賀大学医学部看護学科 幸松美智子氏を、2008年10月11日（土）に、佐賀県看護協会看護センター（佐賀市）にて開催致しました。116名の方がご参加くださり、シンポジウムや分科会について御好評いただきました。誠にありがとうございました。

2009年11月21日（土）には、第7回（2009年度）沖縄地区地方会を開催予定です。詳細については、今後、学会ホームページやニュースレターで随時お知らせいたします。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

## ◆ 編集後記 ◆

3月を前に東京では雪が舞いました。日本小児看護学会ニュースレター34号をお届けします。今回は学術集会案内、プロジェクト報告、認定看護師の紹介第2弾に加え、新連載で「リレートーク」をはじめました。ぜひ皆様からのご感想をお寄せください。jschn\_koho@yahoo.co.jp あわせて学会ホームページ<http://jschn.umin.ac.jp>もご覧ください。

### 広報委員会メンバー

委員長：濱中喜代  
委員：三輪百合子、長佳代、田久保由美子、込山洋美、村松久江